

助産師職能委員会

委員長：松山 栄子

1. 活動方針及び活動目標

1) 病院で流産・死産を経験した母親に対する支援として医療施設と地域とを繋ぐ情報提供票を作成する
2) タイムリーな課題発見・意見集約

2. 活動内容

実施項目 【開催場所】	内 容	開催日 等	参加者
定例委員会 【マルイトOBPビル】	1) 流産・死産後に退院した母親の状況について情報共有 2) 医療施設と地域とを繋ぐ情報提供票の検討とプレテストの実施 3) その他 情報共有 ・コロナ陽性妊産褥婦への対応 ・「母子のための地域包括ケアシステムの推進」について情報共有 ・女性とその家族の支援について情報共有	全10回	委員12名

3. 活動実績

実施項目 【開催場所】	内 容	開催日 等	参加者
近畿地区助産師職能 合同研修会 【WEB開催】	講演：助産師が取り組むプレコンセプションケアウィメンズヘルスに向けて 講師：順天堂大学 教授 西岡笑子氏 意見交換・交流会	12月16日	委員11名
保健師・助産師職能 合同会議 【マルイトOBPビル】	流産・死産を経験した母親への支援（連携フロー・情報提供票）について情報共有・意見交換	2月2日	助産師職能委員 10名 保健師職能委員 6名
【活動の概要】 1) 流産・死産を経験した母親への地域連携体制構築のための方法検討 ①情報提供票の作成 ・要養育支援者情報提供票は、特定妊婦や虐待予防の観点から作成されたものであり、流産・死産された母親の情報提供には適さないため、新たな様式を作成し地域と情報を共有していく。 2) 「母子のための地域包括ケア病棟」の普及 ①院内助産、助産師外来、産後ケア等について情報共有 ②COVID-19妊産褥婦の管理体制、立ち合い分娩、面会、母親学級等集団指導について情報共有、意見交換し自施設の取り組みに活用。 3) 女性とその家族への支援に必要な体制の整備 ①父親に対する支援 父親の育児休暇が推進されたが、現状では面会制限もあり、父親指導も不十分な中で父親によ			

る子どもへの虐待事例の報告や父親のうつ症状の事例の報告があった。委員の中でも父親への支援が課題となり、それぞれの施設の現状把握と父親への支援の必要性を共有した。保健師職能委員や大阪府助産師会へも情報共有し父親への支援体制について検討していく。

4. 課題・その他

- 1) 「流産・死産を経験した母親への支援」のための地域との連携体制構築について、作成したフローと情報提供票を大阪府下の看護職（産科関連機関で勤務する看護師・助産師・保健師）へ周知
- 2) 女性とその家族への支援に必要な体制の整備
- 3) 地域の助産師・保健師との情報共有、ネットワークの強化